



小清水小学校 学校だより

羽ばたけ

平成26年11月11日 <第7号>

親の一言

小清水町立小清水小学校長 寺本 聡

□まずは、次の作文を読んでみてください。

小さなことのできる人

金澤 学人（3年）

九才になった夕方、お母さんに「どんな人間になってほしい。」と聞いてみたら「お便所のトイレットペーパーが無くなっていたら新しいのと取り変えるとか、おふる場の洗面器とかイス、石けんをすみに片付けて出て来るとか、見過ごしてしまっても自然にできる人間になってほしい。」と言ったので、（何だ、そんな簡単な事か。）と思ってみたもの時間がたつにつれて、何でもない様な事だけ大変難しい事に気が付いて考え込んでしまいました。お母さんが望んでいる人間になれたら地球制はしたのと同じくらい気持ちになるだろうなあと考えた。僕は、そんな人間になりたいなと思った。

（『朝日作文コンクール入選作 子どもを変えた“親の一言” 作文25選』 明治図書より）

■如何でしょうか。実際に3年生が書いた作文です。その内容も素晴らしいのですが、ここではやはりテーマになっている「親の一言」に注目したいですね。正に、**本校の重点目標である「当たり前」を当たり前でできる子供の育成**に通ずるものがあります。

□「お母さんの教えも立派、学人君の受け止め方もまた立派である」（選者の一人：野口芳宏氏の評）。『人に言われなくても、自然にやるべきことのできる人間』言い換えれば、『やってはいけない事は絶対にやらない人間』を育てていらっしゃるのだと思います」（選者の一人：水野茂一氏の評）。■日本には昔から「誰が見ていなくても、お天道様が見ていらっしゃる」と、いう教えがあります。若い人には、もしかするとあまり聞いた事のない言葉かも知れません。「悪いことをして他の人が誰も見ていなくても、太陽はきちんと見ているのだから、どんな時でも悪いことははたらかぬべきだ」と、説く語です。つまり、倫理観や道徳心、自律心といったものを養うために、親（祖父母）が子どもに言って聞かせた言葉と言えます。

□実は、本校トイレで残念なことが起こっているのです。便器内や汚水を流す場所にトイレットペーパーの芯や未使用のトイレットペーパーが投げ込まれるという事が続いているのです。学級や学年での指導はもちろんのこと、職員による様々な未然防止の策を講じているのですが、未だ完全解決には至っていない状況です（この数週間は起こっていませんが）。「子どもの何らかのサイン」かも知れないと受け止めつつ、子どもたちが落ち着いて学校生活を送ることができるよう、職員一同今後も全力で取り組んで参ります。ぜひ、ご家庭のご協力もお願いいたします。

道徳教育推進事業「講演会」



10月15日に道徳教育推進事業として、牧谷宇佐美さんを講師に5・6年生を対象に行われました。牧谷さんは元プロ野球選手（ヤクルトスワローズ）で、現在は北海道日本ハムの職員として少年野球の指導などにもあたられている方です。

ご自身のプロ野球選手としての経験からのお話とたくみな話術で、大変楽しい講演会となりました。

PTA給食試食会



10月16日と23日 PTA 研修委員会主催の給食試食会が行われました。16日には低学年の保護者の方、23日は高学年の保護者の方にお集まりいただき、給食の試食をしていただきました。試食の後には本校の栄養教諭からの説明も聞いていただきました。

後期児童総会

10月24日に後期の児童総会がありました。後期の児童会役員にとって初の大きな仕事です。総会議案を基に活発な意見交換が行われました。

